

第 27 回 東日本大震災支援全国ネットワーク 世話団体会 議事録

1. 開催年月日： 2014 年 4 月 23 日（水）

2. 開催場所： 日本 NPO センター 会議室

3. 出席者： 総数 12 名（事務局を除く）

◇ 出席代表世話人（3 名）

栗田暢之 代表世話人（NPO 法人 レスキューストックヤード）

田尻佳史 代表世話人（認定 NPO 法人 日本 NPO センター）

山崎美貴子 代表世話人（「広がれボランティアの輪」連絡会議）

◇ 出席世話団体（5 名）

水澤元博 公益社団法人 日本青年会議所

田島誠 認定 NPO 法人 国際協力 NGO センター

松原明 NPO 法人 シーズ・市民活動を支える制度をつくる会

鈴木歩 NPO 法人 シーズ・市民活動を支える制度をつくる会

山根一毅 公益財団法人 日本 YMCA 同盟

◆ 欠席世話団体（6 団体）

東京災害ボランティアネットワーク

社会福祉法人 中央共同募金会

公益財団法人 日本財団

日本生活協同組合連合会

日本赤十字社

一般社団法人 ユニバーサル志縁社会創造センター

4. 議事

【議題1】報告事項

全体ミーティングについて

3月29日に、周年事業として「まだまだ、やれることがある」をサブタイトルに全体ミーティングを実施した。83団体126人の参加者があった。3年目から4年目に入ったところで、これだけの参加者数があったことは、東日本大震災支援への関心はまだあることを示していると認識できる。

【議題2】検討事項

事項2. 関係省庁定期協議について

(出席者A) :

本日、第3回の省庁定期協議を復興庁で開催した。参加団体から2月に提出された要望について各省から回答を得た。

(出席者B) :

非常に風通しのよい雰囲気があったと思う。各省庁も係長クラスが出席したので、省庁側も大切なNPOとの対話の場ということで位置づけられている感触。回答内容も政府としても色々と努力することが加わっていた。ある程度誠意をもって対応された。

(出席者A) :

予算要望に関しては、例年通りのスケジュールということが確認された。5月中位に要望を受け付け、6月・7月省内会議、8月末に財務省に出す。12月の末に決定の予定。

(出席者B) :

日程調整の定期化は難しいのか？

(出席者A) :

これから要望を募集すると、次回開催は6月か7月になる。定期化するならば、その次は8月か9月となるが、その時期はあまり効果がない。事前に出した要望を省庁がNPO向けにまとめるのが10月なのでそのあたりにやったほうがいい。そのために次回向けの世話団体会としての要望取りまとめの

お知恵を拝借したい。

(出席者 C) :

事務局で預かることはできないか。とりまとめまでしてから世話団体会のメンバーリングリストで確認するのはどうか。

(事務局 A) :

ではそのようにします。

事項 1. 前期決算報告と 2014 年度事業計画について

(事務局 A) :

2013 年度の年次報告は昨年の年次報告と同じようなスタイルで、最終的には取りまとめを考えている。各活動の事務局担当者からひとつおりの報告事項などを挙げている。組織概要、3年メッセージ、沿革、被災地支援活動、広域避難者支援活動、後方支援活動の状況を掲載する。その後、助成金や個人の寄付についてお名前を掲載。財務諸表として決算の数字を表示し、最後は協力者一覧として、JCN 主催の会議体に登壇・協力頂いた団体、アンケート調査などにご助言いただいたかたをできる限り並べたい。

(出席者 D) :

活動全体の概要が書いてある、事業計画が最初に見えるほうがいい。いきなり内容に入ってしまった。地域駐在員のコメントがあるが、もう少しフォーマルにした方がいい。

(事務局 B) :

被災地支援活動のこれまでは、岩手、宮城、福島に1名ずつ配置し、キーとなる団体とネットワークをつくり、支援団体につなげてきた。次年度はもう少し踏み込み、地域の課題を可視化したいと考えている。具体的には、新たにレポートの発行、ケース検討会の拡大実施などで、課題の解決を目指す。ケース検討会議は隔月で各県ごとに実施。現地会議は各地域で年2回にしようと考えている。

(事務局 C) :

広域避難者支援活動は、具体的に支援プログラム等が動き出して、武田薬品工業株式会社と中央共同募金会の広域避難者支援プログラムという、具体的なものをもう少し詳しく書いていくという風にしたいと思う。

(事務局 A) :

後方支援活動は、前回見ていただいたものから、特に変更はない。

決算については、収入が 50,062,878 円、前期繰越額が、8,013,718 円。支出が同様に 50,805,531 円、収支差額は 742,653 円のマイナス。一方で、次期繰越額が、7,271,065 円で、内容としては前受金、今期のものとしてお預かりしているもの、助成されているものを、次期繰越額としてある。2013 年度としては 74 万円の赤字となる。

(出席者 E) :

これが、総会資料になるのか？

(事務局 A) :

はい。総会の時の決算案になる。厳密に言えば監査がまだですので、監事のお二人に監査をいただくことが残っている。

(出席者 C) :

2014 年度の予算だが、本来であれば 3 月にやっていたらいけない。年々多様な資金が入ってくるということは少なくなっているので、資金確保というのにも苦労しながらの予算ということになる。今の段階では確定したものでもなく、打診中の所も含めて、結果が出ていないもの。まずは 2014 年度の暫定予算として、この場で承認をいただきたい。

(事務局 A) :

では 2014 年度の暫定予算という形で、承認は挙手を。(全会一致を確認) 原案を暫定予算という形で取り扱う。

事項 2. 東北応援ビレッジの実施について

(事務局 A) :

今年は企業ボランティアさんの参加を促すことを重視したい。ところが、開催時期を 3 月末とすると、企業の方に参加をお願いするのは厳しいというご意見も頂いている。開催時期は、5 月 10 日・11 日、場所は丸の内のオアゾで実施することにした。企画詳細はさらに詰めていくが、世話団体の皆様には告知や当日のスタッフなどお願いしたい。

5. その他

総会は6月16日、日本青年会議所会館で実施する。

次回世話団体会は6月4日に実施する。